

自治体の課題、現状

【現状】

- 本県では、部活動の休養日や活動時間等をガイドラインで示すとともに部活動指導員や外部指導者を活用し、教職員の負担軽減を図っている。教職員の負担軽減と生徒のスポーツに親しむ機会の確保の両立には、教員以外の指導者や受け皿となる団体の協力が求められるが、少ない状況にある。

【課題】

- 将来にわたり、生徒がスポーツに親しむことができる機会の確保。
- 受け皿となる団体や指導者の確保と体制の整備。
- 地域クラブで活動する際の移動手段や費用負担の在り方 等

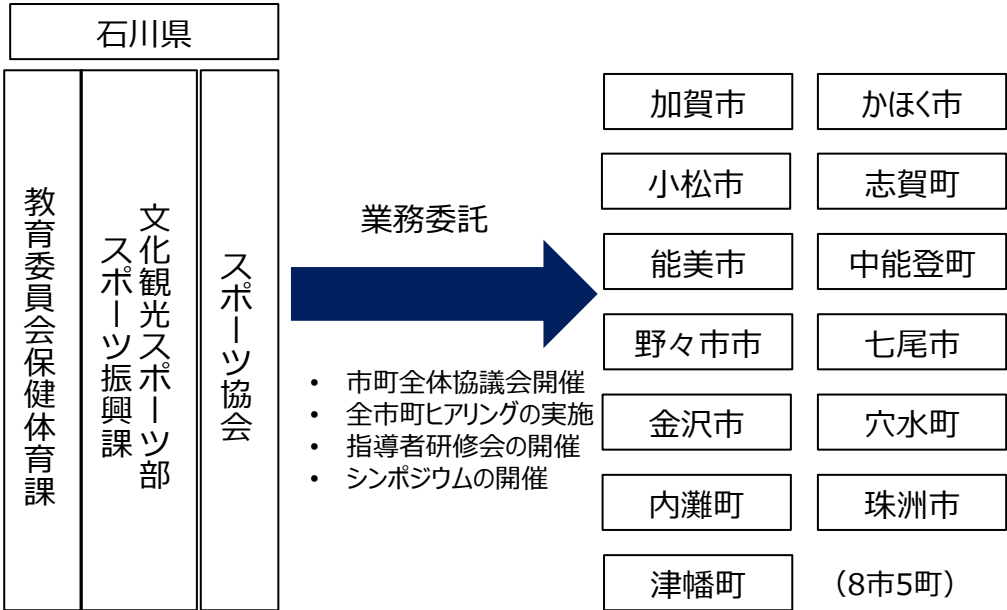
地域クラブ活動等の概要

中学校数	93校	全生徒数	27,703人
域内の部活動数	839部	実施した地域クラブ数	146クラブ
全体の指導者数	530人	全体の運営スタッフ数	119人
主な運営団体	県教育員会 県文化観光スポーツ部スポーツ振興課 市町教育委員会 市町スポーツ振興課 スポーツ協会等		
主な種目	陸上競技、水泳競技、軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、ソフトボール、柔道、剣道 等		
平均的な活動回数	市町報告書参照	年間平均参加生徒実数	市町報告書参照
参加会費	市町報告書参照	主な活動場所	市町報告書参照

取組の概要や成果

- 市町全体協議会を地域展開に関係する4課（文化振興課、スポーツ振興課、学校指導課、保健体育課）合同で開催し、先進的な取組の共有や広域連携の取組の推進を図った。
- 県内全19市町にヒアリングを行い、進捗状況の確認や課題の共有、伴走支援の在り方について検証し、市町の取組の支援に努めた。
- 地域クラブ活動指導者及び外部指導者を対象とした指導者研修会を行い指導者の質の保障に努めた。
- 部活動地域展開シンポジウムを開催し、普及啓発と機運の醸成を図った。

運営体制図



自治体の課題、現状

今後更に少子化が進行することが見込まれる中で、令和7年度現在、市立中学校24校に18競技・267の運動部活動があり、6,441人が在籍しているが、部活動数・部員数ともに減少しており、これまでと同様な活動を維持していくことが困難になっている。

多様なニーズに対応する受け皿づくりを行うため、令和7年度は部活動地域移行検討協議会を開催し、地域移行に向けた実施体制、活動場所や指導者の確保、費用負担などの課題について、方向性を検討した。

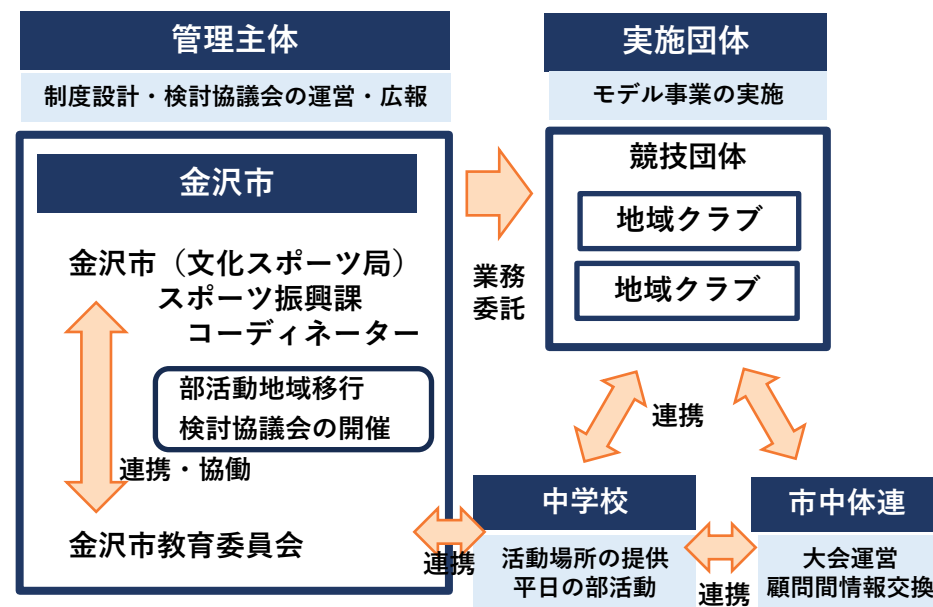
地域クラブ活動等の概要

中学校数	24校 (市立)	全生徒数	10,695人 (市立)
域内の部活動数	267部 (市立運動部)	実施した地域クラブ数	7クラブ
全体の指導者数	21人	全体の運営スタッフ数	11人
主な運営団体	金沢市柔道協会、金沢市ハンドボール協会、金沢市バレーボール協会		
主な種目	柔道、ハンドボール、バレーボール		
平均的な活動回数	2～4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：8人/クラブ 2年：9人/クラブ 1年：2人/クラブ
参加会費	1,000～2,000円/年	主な活動場所	中学校体育館・柔道場

取組の概要や成果

- 『部活動地域移行検討協議会』の開催
- 部活動地域移行担当の配置
- 部活動地域移行コーディネーターの設置
令和7年度から、運動部活動地域移行コーディネーターを配置（スポーツ振興課）
- 地域移行モデル事業の実施
運動部活動 3競技で実施（柔道・ハンドボール・バレーボール）

運営体制図



自治体の課題、現状

当市は、令和5年度から部活動は希望加入制に変わり、令和6年度は部活動加入率がおよそ78%で部員数の減少が進む。また、指導者不足や生徒の減少による学校単位での参加が難しくなった部活動もあり、地域スポーツクラブへの地域移行が必要になってきた。

【課題】

- ・ 複数指導者の人材確保が必要。
- ・ 指導者の質の確保（技術等の向上）。
- ・ 指導者と保護者との連携・協力。
- ・ クラブ活動時の送迎問題。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	1,020人
域内の部活動数	55部	実施した地域クラブ数	32クラブ
全体の指導者数	45人	全体の運営スタッフ数	45人
主な運営団体	バスケットボール、野球、バドミントン、バレーボール、陸上競技ほか		
主な種目	バスケットボール、野球、バドミントン、バレーボール、陸上競技ほか		
平均的な活動回数	8回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：7人/クラブ
参加会費	2,000～3,000 円/月程度	主な活動場所	学校体育館、陸上競技場 ほか

取組の概要や成果

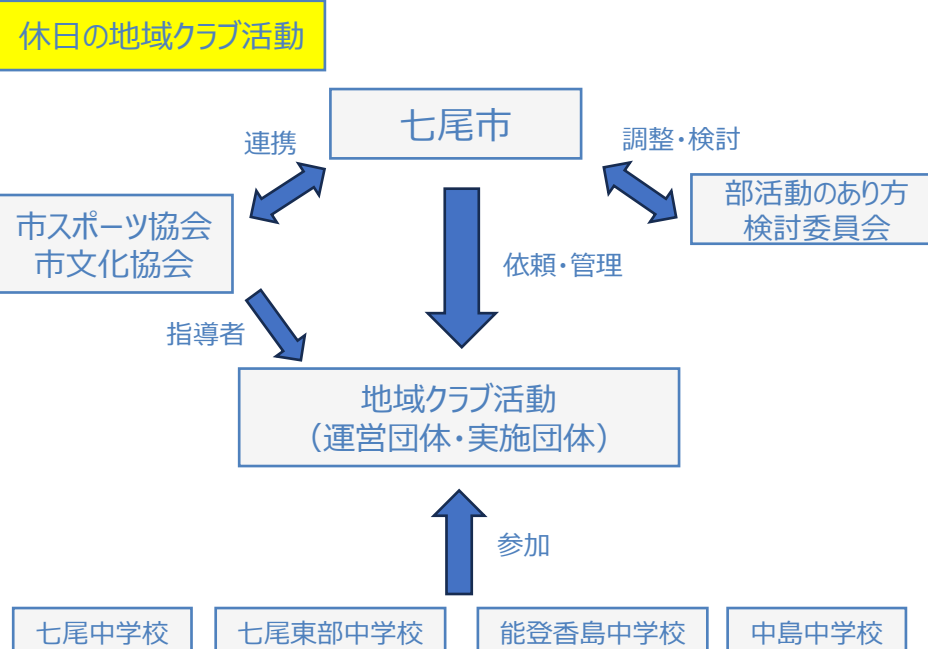
【取組み】

- ・ 休日における中学校部活動地域移行のロードマップ作成
- ・ 保護者や小中学校長及び地域スポーツクラブ等代表者に学校部活動の地域展開に伴う説明会を開催

【成果】

- ・ 令和8年度から休日の部活動を停止し、地域クラブ活動に移行または活動しないこととした

運営体制図



自治体の課題、現状

- 小松市の中学校生徒数の推移をみると、この10年間で約500名、17%余りの減少が見られ、その間、部活動の数を減らした学校もある。運動部活動加入率も年々減少し60%を切っている。一方、学校部活動以外の社会スポーツや民間の活動団体への加入者数も年々増加しており、ここ10年で2倍近くまで増えている。
- 地域移行の取組の現状は、市スポーツ協会が中心となり、各種目別協会の協力を得て、受け皿の拡充を図り、今年度の9月の市新人戦以降は、すべての競技において休日の地域展開を行った。
- 地域展開を進めるうえで、指導者の確保や場所の確保、会費や送迎などの負担の問題、休日と平日の指導者の連携などの課題があげられる。

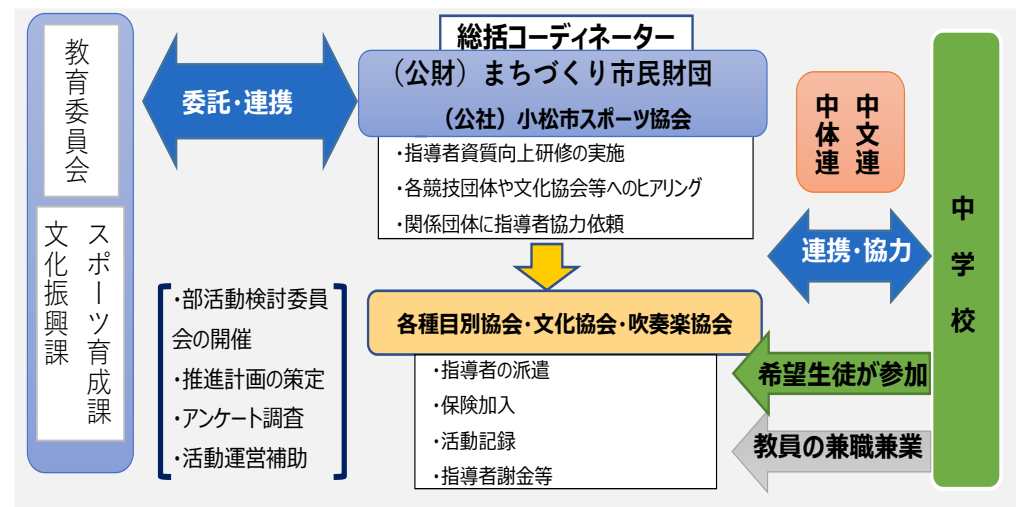
地域クラブ活動等の概要

中学校数	10校	全生徒数	2,827人
域内の部活動数	71部	実施した地域クラブ数	33クラブ
全体の指導者数	138人	全体の運営スタッフ数	33人
主な運営団体	種目別協会		
主な種目	陸上・剣道・柔道・ハンドボール・体操・軟式野球・卓球・バレーボール・バスケットボール・スキー		
平均的な活動回数	4.9回/月	年間平均参加生徒実数	3年：1人/クラブ 2年：6人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	各中学校及び公共施設

取組の概要や成果

- 令和7年10月よりすべての運動部活動の休日の地域展開の実施を行った。
- 市のHPの部活動地域展開のページを開設し、リーフレットや種目別協会の受け入れ体制等を掲載し、随時更新していく。
- 地域指導者の募集をHPに掲載している。
- 市の広報誌に部活動地域展開のお知らせを何度か掲載した。
- 種目別協会とのヒアリングを何度か実施し、休日の地域移行への補助事業を行うことで、受け入れ体制の拡充を図り、今年度はほぼすべての種目で受け皿を設けることができた。
- 野球やバドミントンなど、いくつかの種目は新たなクラブを立ち上げ、市で認定を行った。

運営体制図



自治体の課題、現状

【地域事情】

- ・ 少子化のみならず、令和6年能登半島地震による市外転出に歯止めがかからず、単独校での大会参加が困難。

【令和6年能登半島地震の影響】

- ・ 各学校のグラウンドに仮設住宅が建設され、グラウンドを使用する部活動の活動は制限されている。

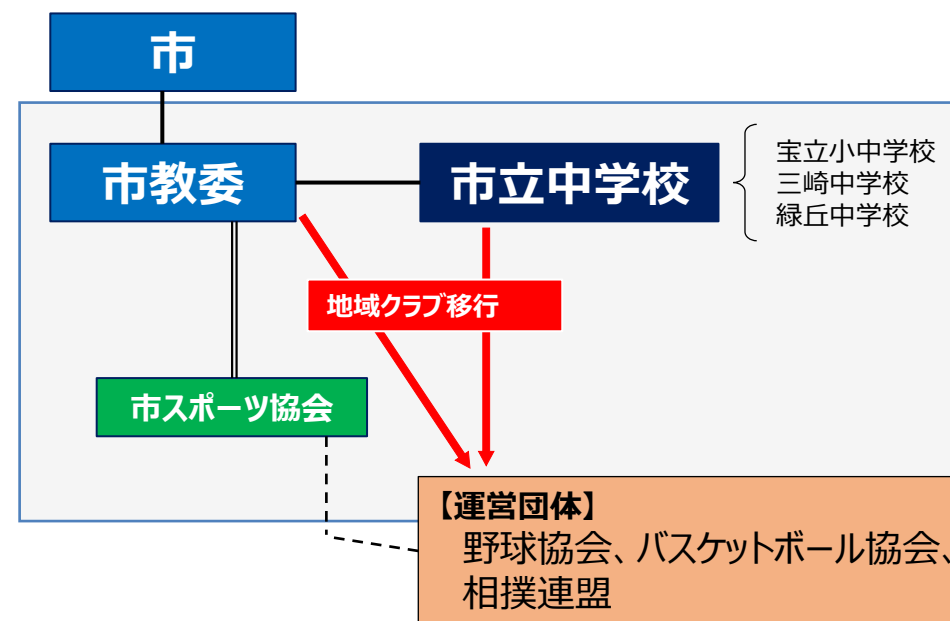
地域クラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	131 人
域内の部活動数	13部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	16人	全体の運営スタッフ数	21人
主な運営団体	珠洲市野球協会、珠洲市バスケットボール協会ほか		
主な種目	軟式野球、バスケットボール、相撲		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：4人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	学校体育館、球場ほか

取組の概要や成果

- ・ 震災が原因とはいえ、屋外での活動場所が制限された生徒らに対し、公平に活動場所を提供することができ、かつ、その成果を示す試合等に参加することができる体制を構築できた。
- ・ 市教委が地域クラブとして認定し、適切な市からの財政支援を実施することで、他の競技の先行事例として示すことができた。
- ・ 地域クラブ移行に向け、学校現場、保護者の理解を得るため、複数回にわたり協議や説明会を開催したことで、スムーズに地域移行を進めることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 令和7年8月から、休日の部活動の停止
- 令和7年8月から、スクールバスによる生徒送迎実証事業開始
- 令和7年9月から、ハンドボール競技の地域展開開始
- 令和7年9月 休日の部活動展開完了
- 加賀市内中学生1,416人のうち地域クラブ入会参加数521人（令和8年2月現在）
- 既に一部の地域クラブでの平日展開が始まっているが、平日の活動場所確保や他の地域クラブの平日展開拡大などの課題がある。

地域クラブ活動等の概要

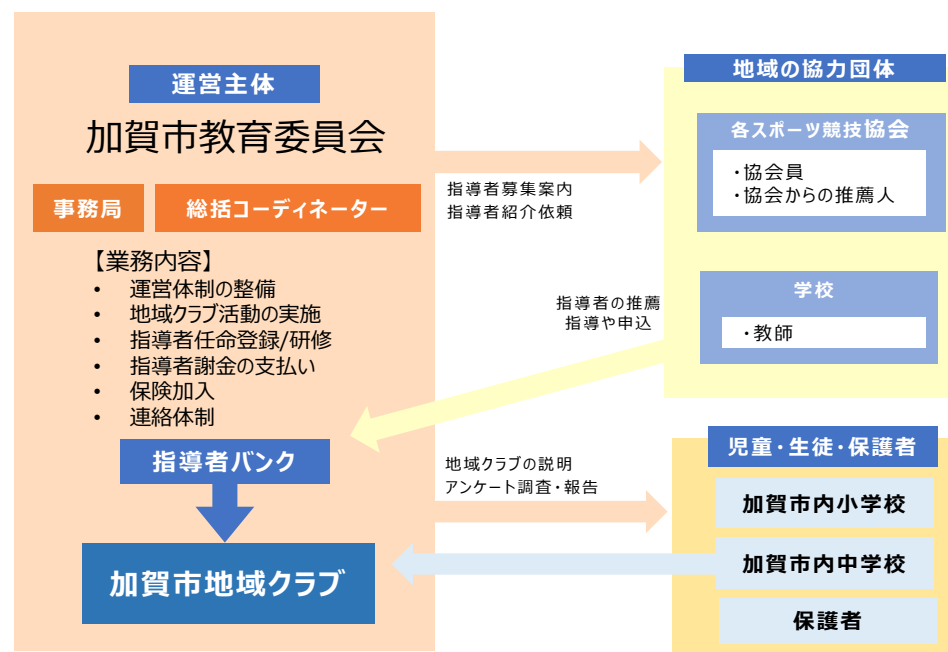
中学校数	6校	全生徒数	1,416人
域内の部活動数	37部	実施した地域クラブ数	11クラブ
全体の指導者数	94人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	加賀市教育委員会		
主な種目	陸上競技、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、ソフトボール、ハンドボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：11人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	なし	主な活動場所	学校施設

取組の概要や成果

令和7年8月から、休日の部活動を停止し、ハンドボール競技の地域展開が行われた結果、本市において休日の部活動地域展開は完了している。また、平日の地域展開についても、女子バスケットボールクラブおよびソフトボールクラブで開始した。

運営面では、保護者アンケートの結果を踏まえ、スクールバスによる生徒送迎実証事業を導入。移動支援を含め環境整備に努めている。令和7年12月に実施した生徒向けアンケートでは、地域クラブの活動に対して88.6%の中学生が「満足」と回答しており、地域展開後の活動が、参加者にとって概ね良好な評価であることが確認された。

運営体制図



自治体の課題、現状

令和6年度に3つの競技で休日の活動を地域に展開し、令和7年度からは、休日地域クラブが4クラブ、平日地域クラブが3クラブ活動を始めた（令和7年度途中で休日地域クラブのうち1つが平日も地域展開）。令和6年度は会費徴収は行っていなかったが、令和7年度からは会費の徴収も始め、本格的なクラブ運営をスタートさせた。持続可能な地域クラブとなるよう、安定したクラブ運営体制を確立する必要がある。

当市では、令和8年度からの休日学校部活動を廃止する方針としており、市内の全ての部活動の休日地域展開が急務となっている。

地域クラブ活動等の概要

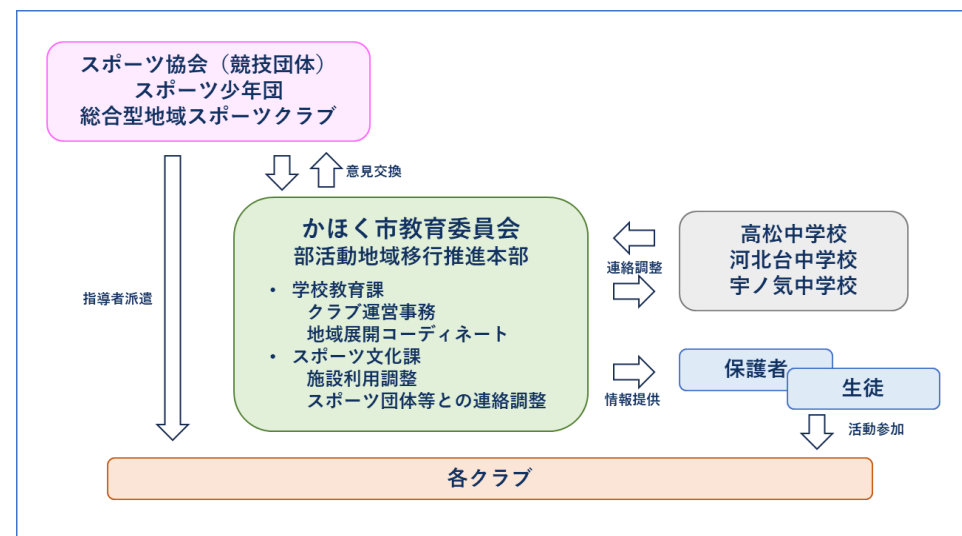
中学校数	3校	全生徒数	945人
域内の部活動数	17部	実施した地域クラブ数	7クラブ
全体の指導者数	46人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	かほく市教育委員会		
主な種目	バスケットボール、野球、バドミントン、ソフトテニス、卓球、バレーボール、柔道		
平均的な活動回数	休日クラブ4回/月 平日クラブ16回/月	年間平均参加生徒実数	3年：8人/クラブ 2年：9人/クラブ 1年：9人/クラブ
参加会費	休日クラブ2,000円/月 平日クラブ5,000円/月	主な活動場所	体育施設、学校体育館

取組の概要や成果

既存クラブの活動を進めるとともに、地域展開未完了の競技においても関係団体等と地域展開の協議を進めた。

令和8年度開始時点（令和7年度末）で、市内の全ての部活動で休日の地域展開が完了することとなった（元から休日の活動を行っていない部活動は除く）。また、令和8年度には、平日地域クラブも新たに4クラブ誕生する見通しとなり、市内の部活動の地域展開を大きく推し進めることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 本市の中学校生徒数については、平成28年度1,659人に対して、本年度は1,371人であり、この10年間で288人、約17%の減少がみられ、その間に部活動の数を減らしたり合同チームで大会出場したりする学校も現れてきた。運動部活動加入率も年々減少し、約60%となっている。一方、学校部活動以外の社会スポーツクラブや民間の活動団体への加入者数も年々増加しており、昨年度には148人に増えている。中には、学校にその競技があっても、社会スポーツクラブに入る生徒も増えてきている。このことから生徒や保護者のニーズが多様化している状況がうかがえる。
- 本市の地域部活動移行については、令和2年度に「能美市スポーツアカデミー事業」を設立、令和3年度には「地域運動部活動推進事業」に移行し、7競技を地域運動部活動実践研究の対象とし事業を推進してきた。
- 令和5年度・7年度と2期にわたり「部活動のあり方検討委員会」を実施し、令和5年度には地域移行の方向性を確認し、今年度については、令和10年度4月より中学校の「休日・祝日の部活動」はすべて地域展開されることに決定した。

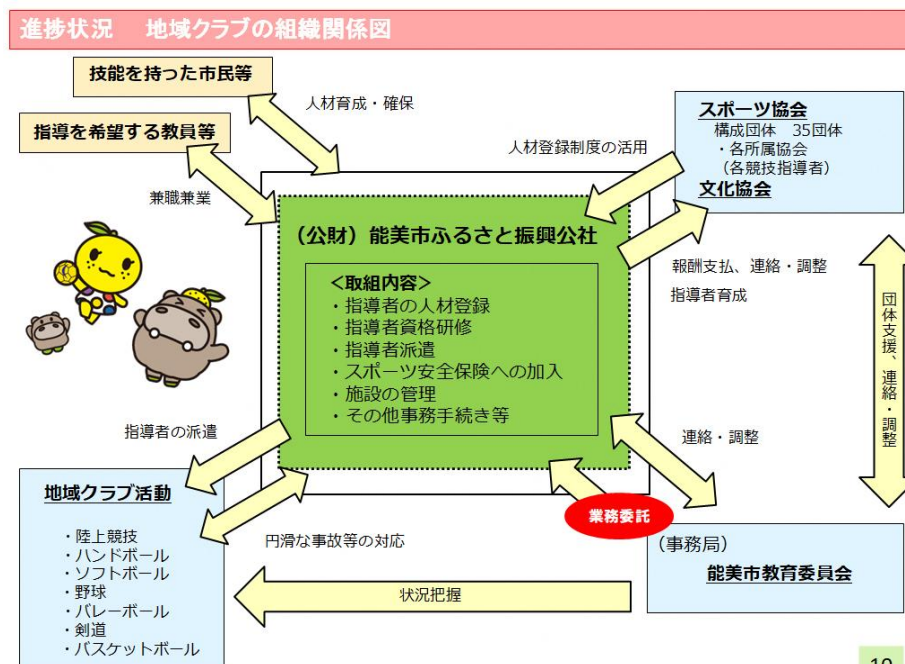
地域クラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	1,372人
域内の部活動数	35部	実施した地域クラブ数	7クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	競技別各スポーツ協会		
主な種目	ハンドボール・陸上競技・ソフトボール・剣道・バスケットボール		
平均的な活動回数	9回/月	年間平均参加生徒実数	3年：17人/クラブ 2年：18人/クラブ 1年：12人/クラブ
参加会費	0円/月	主な活動場所	各中学校及び公共施設

取組の概要や成果

- 第2期「能美市部活動のあり方検討委員会」を通して、令和8年度から令和10年度までの3年間で、「運動部における休日の地域展開の完了」・「文化部における段階的な地域展開の推進」の目標達成を目指し、準備を進めることとなった。
- 休日のみならず、平日も含めた活動を行う地域スポーツクラブの認定が進み、令和8年度にはハンドボール、サッカー、軟式野球、ソフトボール、卓球の5競技が地域展開を進める。
- 広報活動については、回数を重ねることにより生徒・保護者はもちろんのこと、市民にも理解が広がってきた。

運営体制図



自治体の課題、現状

本市の2校の中学校は、それぞれ生徒数700名超で増加傾向にあり、18の部活動を設置しているが、統合・整理や複数顧問制でも教員負担軽減が困難な状況である。特に男子バスケットボール部は全国優勝の実績があり、地域・保護者の期待が高い。今後3～4年目に向けてモデル部活動を増加させるため、運営事務局の機能強化と地域指導者の発掘・増員が必要である。年度ごとに成果や課題を評価し、課題に応じた対応策を検討しながら、推進期間内に全市協会・団体が連携・改革に向けて自信を持って取り組める環境整備を目指している。

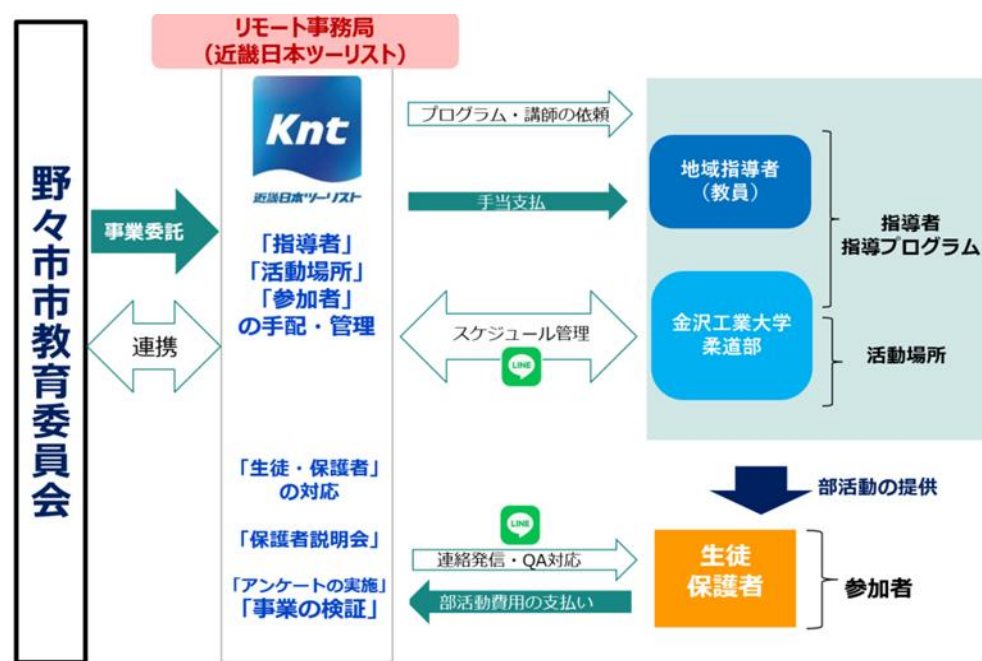
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	1,578人
域内の部活動数	36 部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	近畿日本ツーリスト株式会社		
主な種目	柔道部		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	2年：4人 1年：13人
参加会費	1,000 円/月	主な活動場所	金沢工業大学柔道場

取組の概要や成果

- 金沢工業大学協力のもと、2校合同で柔道部の地域展開を実施。休日に加え、希望者のみであるが平日の活動にも着手した。地域クラブでの活動は定着しつつあり、実証事業の短期間のみではなく年間実施への要望が寄せられている。
- 地域クラブの運営事務局機能（保護者連絡、月会費徴収、指導者派遣など）を民間委託し、地域指導者や市教育委員会の負担軽減を図った。
- 新規クラブ開設に向けて保護者説明会を実施したが、費用面等、一部の部活動の先行実施や運営事務局委託への課題が浮き彫りになった。

運営体制図



自治体の課題、現状

合計31の運動部活動が津幡中学校・津幡南中学校の2中学校でそれぞれ活動している。そのため、津幡中学校のみで活動する部活動や、津幡南中学校のみで活動する部活動がある。

今年度より、津幡中学校のバドミントン部の平日・休日ともに部活動地域移行の取組を行った。

今後も少子化のために児童・生徒数は減少していくことが見込まれており、部活動の維持をするのは困難となるものと考えられる。

町内の各種競技団体と連携し、理解と協力のもと地域移行を進める必要がある。一方で、指導者や活動場所の確保といった課題があり、理解と協力を求めて施設確保を行わなければならない。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	1,038人
域内の部活動数	31部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	12人	全体の運営スタッフ数	12人
主な運営団体	津幡町相撲連盟、津幡町バドミントン協会		
主な種目	相撲、バドミントン		
平均的な活動回数	15回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	5,000円/月	主な活動場所	津幡町総合体育館 津幡運動公園体育館

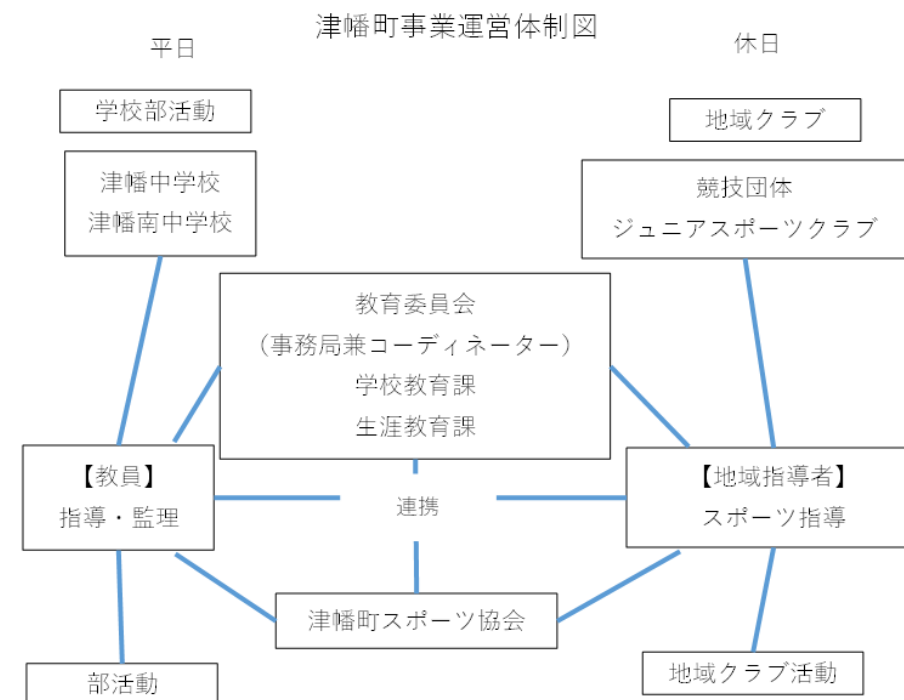
取組の概要や成果

今年度より新たにバドミントンの地域クラブが発足し、こちらは休日だけでなく、平日を含めた地域移行クラブとして発足した。概ね順調に活動が実施されていると考えている。また、昨年度より休日の部活動を移行した相撲部においても特段のトラブルなく活動を継続できている。

活動場所をいかに確保するかという点において苦慮することもあったが、津幡町スポーツ協会とも連携して事業を進められたと認識している。

コーディネーターにおいては各種関係者との連携等に尽力し、また謝礼の支払においても速やかに対応した。

運営体制図



自治体の課題、現状

- すでに外部指導者がいる部活動を中心に、競技協会へ指導者の派遣依頼を行うことで、4部活動が地域移行に取り組むことができた。
- 競技協会において指導できる人はすでに小学生の指導を行っており、中学生の指導まで請け負うことができない等の理由により指導者が不足している。
- 各スポーツ団体で指導に対して謝金を払っている団体はほとんどないため、活動費に加えて謝金に対する適切な会費の設定を行う必要がある。

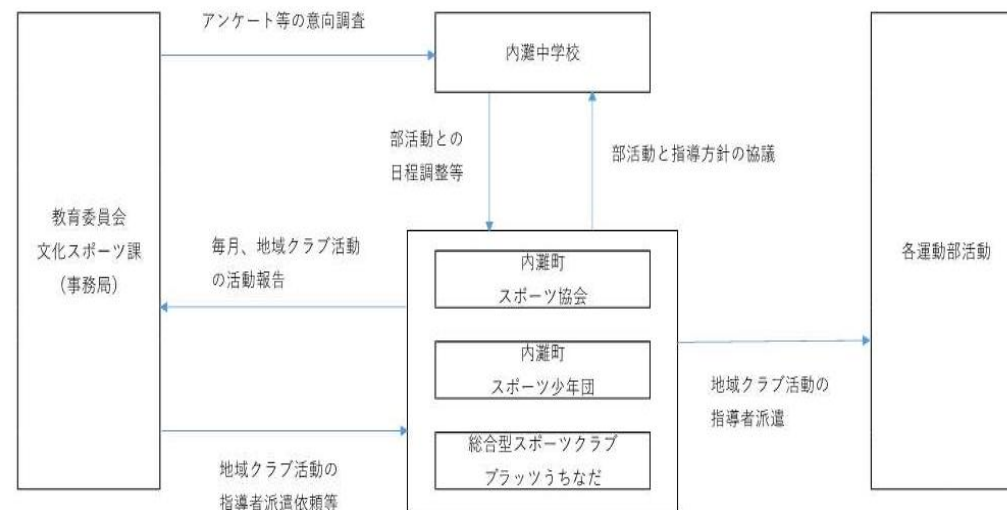
地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	694人
域内の部活動数	16部	実施した地域クラブ数	4クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	内灘町教育委員会 各競技協会		
主な種目	水泳、卓球、剣道		
平均的な活動回数	3回/月	年間平均参加生徒実数	3年：17人/クラブ 2年：39人/クラブ 1年：36人/クラブ
参加会費	800円/年	主な活動場所	内灘中学校 屋内温水プール

取組の概要や成果

- 顧問と外部指導者の指導方針を擦り合わせるための協議機会を設け、地域移行する際に指導の方針が変わらないようにした。
- 外部指導者に総合型地域スポーツクラブが開催する指導者講習会への参加を促し、生徒への指導の質を高めた。
- 各競技団体と個別に地域展開に向けた協議を行うとともに、指導者全体へ地域展開を行うことの意味や目的について講習会を行った。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 現在、生徒数の減少により多様な部活動を維持できない中学校がある。
生徒数の減少は今後も見込まれ、部活動の在り方の見直しが必要である。
- 地域移行の取組の現状について
部活動の地域移行に係るアンケートの実施（令和5年9月）
部活動検討委員会の開催
（令和5年11月、令和6年11月、令和7年8月）
土曜日部活動の地域移行の試行開始（令和6年6月～）
- 地域移行を進める上での課題は、指導する人材の確保である。

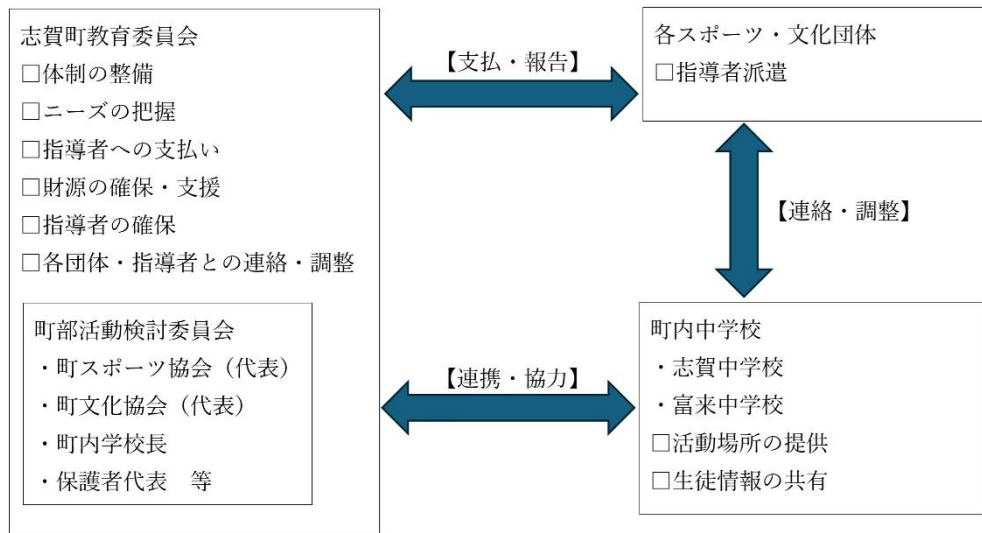
地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	372人
域内の部活動数	18部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	志賀町教育委員会		
主な種目	バレーボール、卓球		
平均的な活動回数	1回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	なし	主な活動場所	志賀中学校

取組の概要や成果

- 町部活動検討委員会や町スポーツ協会理事会等の会合の機会を捉えて、部活動の地域移行の必要性和意義について説明し、「子供を地域で育てる」意識の醸成を図った。
- 町のスポーツ団体の会員に地域スポーツクラブの指導者としての役割を理解してもらうために、中学校部活動の練習の視察を経て、徐々に指導に入るようにしてもらった。
- 土曜日の部活動において月1回程度、視察・指導を実施した。生徒と地域の指導者のつなぐ役割を部活動顧問に依頼した。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 現状：1中学校19部活動（運動部16、文化部3）でほぼ全員加入。
- 競技によっては少子化の影響もあり、充実した活動が実施できなくなっているほか、団体競技に支障がでてきている。
 - 地域移行は、教育委員会主導で取組んだ。
 - 地域移行を進める上での課題は、指導者確保、指導者謝金の担保、会場確保、保険加入などであった。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	412人
域内の部活動数	16部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	44人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	中能登町教育委員会		
主な種目	軟式野球、バスケットボール、サッカー、陸上、ソフトテニス、剣道、バドミントン、卓球、柔道、バレーボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	中能登中学校

取組の概要や成果

- 種目ごとに町教育委員会、部活動顧問、町スポーツ協会加盟の当該種目の競技団体役員と協議検討を重ねた。
- 指導者確保として競技種目の競技団体から部活動の指導にあたる外部指導者を推薦していただき、町スポーツ協会役員との面談を経て、外部指導者として登用することで、指導者の質の担保を図った。
- 指導者の処遇を保证するため、指導者謝金を定め、指導者のモチベーションの維持に努めた。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・ 現状
令和5年度から地域移行実証事業を実施中。（4部活動）
- ・ 取組の状況
既存部活動すべてに外部指導者や部活動指導員等いずれかを配置。
- ・ 課題
地域クラブ化への検討・相談が必要である。（生徒数の減少、広域での取組）
地震からの復興復旧に際し、町体育施設の見直しに伴い、練習場所や地域クラブ化への取組の促進が必要。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	106人
域内の部活動数	8部	実施した地域クラブ数	4部
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	町（教育委員会事務局）		
主な種目	陸上、剣道、ソフトテニス		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：4人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	0円/月 保険料800円/年	主な活動場所	穴水中学校 町体育施設

取組の概要や成果

- ・ 休日の部活動を継続的に取組んだ。
- ・ 外部指導者ではなく、別の校種（高等学校）の教員がボランティアとしてバスケットボール部男子の指導にあたった。その際、高等学校バスケットボール部と合同で練習を実施。
- ・ 休日だけではなく取組が可能な部活動から平日の地域移行を実施している。

運営体制図

